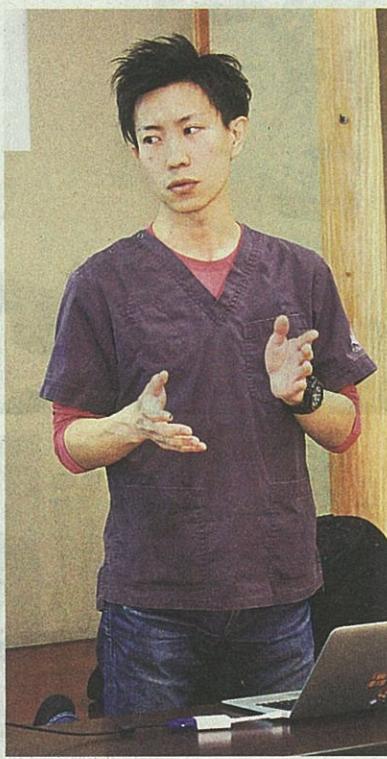


# 妊娠の仕組み まず理解



「子どもをほしいと思ったら前向きに妊活や不妊治療に取り組んでほしい」と語る小川達之さん=甲府・県男女共同参画推進センター

一般的に、避妊をせず、通常の夫婦生活を営んでい るカップルのうち50%は3ヶ月、70%は6ヶ月、90%は1年で妊娠に至るとさ れ、日本産婦人科学会は1年たつても妊娠しないこ

とに伴い、妊娠を望んでいてもなかなか至らない「不妊」に悩んでいるカップルは増えていると感じて いる。「まずは自分の体のこと、妊娠の仕組みについて知つてほしい」と呼び掛け

小川さんは、同病院で主に不妊治療を担当。晩婚化などに伴い、妊娠を望んでいてもなかなか至らない「不妊」に悩んでいるカップルは増えていると感じて いる。「まずは自分の体のこと、妊娠の仕組みについて知つてほしい」と呼び掛け

## 年齢が重要

## ストレスは適度に発散

妊娠や不妊治療は精神的な負担も少なくない。「う

まくいかなければいけないほどつらいと思うが、スト レスも妊娠に影響する。あまり思い詰めず、適度に発散してほしい」と小川さん。

精は40万円台かかる。「経済的負担は大きいが、年齢や世帯収入によって自治体の助成が受けられるので、制度を活用してほしい」

赤ちゃんがほしくて妊活、不妊治療をしている「ベビ待ち」のカップルが増えている。今すぐでもほしいけど、なかなか授からない…。そんなとき、まずは何から始めればいいのか。山梨大医学部産婦人科助教で同大付属病院医師の小川達之さん(33)に聞いた。〈桑原久美子〉

## 妊活、不妊カップル 山梨大病院医師が助言

とを不妊と定義。およそ1代は30~40%だが、30代後半から下がり、40代後半で5%を切る。一方、流産のリスクは年齢が上がるほど上昇。20代は1割だが、40代は5割に高まるという。

「妊活を始めて1年たた

考えられるが、「年齢は誰

合などさまざまなケースが

とで排卵のタイミングをつかみ、夫婦生活を行う「タイミング法」や、排卵が不

順な人向けに排卵誘発剤を

リスクは女性の卵巢機

能低下や子宮外妊娠などの

リスク増加、男性の精子の減

少や運動率低下に影響する

とされ、男女とも禁煙を勧

める。

妊娠補助医療として、体外受精、顕微授精がある。

2014年に日本で生まれた赤ちゃんのうち4・5%

は生殖補助医療によるとされ、「自然妊娠でないこ

とに抵抗がある人もいる

が、今は不妊治療が珍しい

時代でも、恥ずかしい時代

でもない」と理解を求める。

甲府・県男女共同参画推進センターが、「何からはじめる? ママになるためのベビ待ちカフェ」と題して小川さんの講座を開いた。今後も同様の講座を企

## 助成を活用

気になるのは、お金の問題。人工授精は1万円程度、体外受精からは自費診療になるため30万円台、顕微授

精は40万円台かかる。「経済的負担は大きいが、年齢や世帯収入によって自治体の助成が受けられるので、制度を活用してほしい」

精は40万円台かかる。「経

済的負担は大きいが、年齢

や世帯収入によって自治体

の助成が受けられるので、制度を活用してほしい」

精は40万円台かかる。「経

済的負担は大きいが、年齢

</div